

地域とつながる!人とつながる!そんな夏。

人のつながりを感じられた。それがこの夏の感想です。看護・医療健康類型では地域活動と探究学習を並行して、人とのつながりにあふれた夏休みを過ごすことができました。7月26日には特別養護老人ホーム「喜楽苑」にて開催された防災イベントに有志生徒が参加し、「国立障がい者リハビリテーションセンター研究所」が発行している「自分でつくる安心防災帳作り」を行いました。参加された方と防災について一緒に考えることで一学期の学習を自分達も振り返る素敵な機会となりました。また自分とは異なる年齢、性別の方との触れ合いを通し、「異なる目線」を感じ取ってくれていたようです。他者に配慮しようとするその姿勢に「エンパシー」を感じることができました。また防災班は喜楽苑様の管理栄養士の方々に協力をいただき、オリジナル防災食を考案して、防災食レシピ甲子園 in 西宮に出品します。「高校生にできる地域貢献」について探求と実践を繰り返しながら、共に学んでいきます。



8月1日には発達障害班が尼崎双星高校で行われたみんなのサマーセミナーにて「発達障害を哲学する」というテーマでワークショップを行いました。30名以上の参加者が参加して下さり、発達特性はグラデーションがあるのではないかと、まず自分達が理解することから、他者へ寄り添うことにつながるのではないかと自問し、素晴らしい発表を行ってくれました。生徒の学習活動から私自身も学びなおすことができました。まさに生徒が先生でした!調べ、学んだ知識をどのように地域や社会へ落とし込むかが探究学習。現状把握し、問題提起を行うだけでなく、自分が実際に実践することで提言を行う。そして再び現状把握へと帰るのが探究サイクル。素晴らしい発表からの今後の実践や提言を通してどのように地域へ落とし込んでいくのかに期待したいですね!一緒に頑張りましょう!



担当者のつぶやき

ここ数年、地域のつながりが希薄に感じられる機会が増えました。そんな中でもこうして高校生が地域に出ると年代も性別だけでなく、異なる背景を持った方々が本校の生徒を支えて下さります。逆に生徒の活動が看護医療・医療健康類型だけではなく、学校の教育活動そのものを支えてくれていると感じています。人と人がつながることで、新しい自分に出会う。また「人を支える活動を通して、実は自分も他者に支えられている」と強く感じられました。「社会は人のつながり」と実感できるそんな夏です。次号にて他の夏の活動についても紹介します!乞うご期待!